

テンジクダイ科魚類 2 種の水中写真に基づく 鹿児島県薩摩半島からの記録

吉田朋弘¹・山田守彦²・本村浩之³

¹ 〒 851-2213 長崎市多良良町 1551-8 水産研究・教育機構 西海区水産研究所

² 〒 892-0814 鹿児島市港新町 3-1 いおワールドかごしま水族館

³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

テンジクダイ科魚類 Apogonidae は、日本から 26 属 102 種が報告されている (Yoshida and Motomura, 2018; 馬淵・吉田, 2018; Yoshida et al., 2018a, b). そのうちセホシテンジクダイ *Ostorhinchus moluccensis* (Valenciennes, 1832) は、鹿児島県において大隅諸島屋久島から記録されており (Yoshida et al., 2010; 林, 2013), イナズマヒカリイシモチ *Siphamia argentea* Lachner, 1953 は、鹿児島県において大隅半島内之浦, 大隅諸島屋久島, および奄美群島奄美大島から記録されていた (Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉田ほか, 2016). 薩摩半島で撮影されたテンジクダイ科魚類の水写真が, それぞれセホシテンジクダイとイナズマヒカリイシモチに同定された. これらの写真は, 両種の薩摩半島から初めての記録となるため, ここに報告する.

材料と方法

写真から明瞭にわかる形質の計数を行った. 本報告に用いた水中写真は, 鹿児島大学総合研究博

Yoshida, T., M. Yamada and H. Motomura. 2018. Underwater photograph records of two cardinalfishes, *Ostorhinchus moluccensis* (Valenciennes, 1832) and *Siphamia argentea* Lachner, 1953 (Perciformes: Apogonidae), from Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 45: 69–71.

✉ TY: Seikai National Fisheries Research Institute, Japan Fisheries Research and Education Agency, Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).

Published online: 11 November 2018
http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-013.pdf

物館の画像データベース (KAUM-II) に登録されている. 本報告中で用いた研究機関略号は以下の通り: KAUM (鹿児島大学総合研究博物館); KPM (神奈川県生命の星・地球博物館).

結果と考察

Ostorhinchus moluccensis (Valenciennes, 1832)

セホシテンジクダイ (Fig. 1)

写真 KAUM-II. 65, 鹿児島県南さつま市坊津町平崎, 水深 15 m, 1999 年 10 月 3 日, 山田守彦.

分布 *Ostorhinchus moluccensis* はインド・西太平洋に分布する (Allen and Erdmann, 2012). 日本国内では和歌山県白浜 (林, 2013; KPM-NI 80572), 愛媛県愛南 (高木ほか, 2010; 林, 2013), 薩摩半島平崎 (本研究), 大隅諸島屋久島 (Yoshida et al., 2010; 林, 2013), 沖縄諸島沖縄島 (KPM-NI 97538), 慶良間諸島座間味島 (林・矢野, 1996) および八重山諸島西表島 (林・矢野, 1996; 林, 2013) から記録されている.

備考 薩摩半島平崎で撮影された水中写真は, 吻端から眼を通り, 体側中央をはしる金褐色線があること, 体側下方に金褐色を呈する 4 本の横帯があること, 第 2 背鰭基底後端に 1 白色斑を有することから, 林 (2013) が示したセホシテンジクダイ *Ostorhinchus moluccensis* の特徴とよく一致した.

水深 15 m ほどの砂地にある初夏に設置されたイカ柴の残骸の隙間で数匹のセホシテンジクダイが観察されており, ペアを形成し, 求愛行動も観察された. セホシテンジクダイは, 薩摩半島平崎



Fig. 1. Underwater photograph of *Ostorhinchus moluccensis* (off Hirasaki, Satuma Peninsula, Kagoshima, Japan, 15 m depth, 3 October 1999). Photo by M. Yamada.

ではこの水中写真が撮影された約1カ月後にも観察されたが、この年以外では見つかっていない。したがって、本種は黒潮によって偶発的に薩摩半島沖に来遊したものと考えられる。

Siphamia argentea Lachner, 1953

イナズマヒカリイシモチ (Fig. 2)

写真 KAUM-II. 66, 鹿児島県南さつま市坊津町網代, 水深25 m, 2017年10月20日, 山田守彦。

分布 *Siphamia argentea* は西太平洋に分布する (Gon and Allen, 2012; Gon et al., 2014)。日本国内では高知県柏島 (林ほか, 1994; 林, 2013), 愛媛県愛南 (高木ほか, 2010), 薩摩半島網代 (本研究), 大隅半島内之浦 (吉田ほか, 2016), 大隅諸島屋久島 (Yoshida et al., 2010; 林, 2013), 奄美群島奄美大島 (吉田ほか, 2016), 沖縄諸島沖縄島 (林, 2013)・久米島 (KPM-NI 85304)・水納島 (林, 2013; KPM-NI 36365) から記録されている。

備考 薩摩半島網代で撮影された水中写真は、背鰭条数が VII-I, 9 であること, 臀鰭条数が II, 8 であること, 腹鰭条数が I, 5 であること, 体色の



Fig. 2. Underwater photograph of *Siphamia argentea* (off Amishiro, Satuma Peninsula, Kagoshima, Japan, 25 m depth, 20 October 2017). Photo by M. Yamada.

地色が銀白色を呈し, 体側に不規則な金褐色の雲状斑を有することから, 林 (2013) や吉田ほか (2016) が示したイナズマヒカリイシモチ *Siphamia argentea* の標徴とよく一致した。

イナズマヒカリイシモチは薩摩半島網代では水深20–40 mの岩礁域で周年観察されるが, 冬は個体数が減少する。また, 6月頃から本種の幼魚が見られる (米永 茂氏, 私信)。

■ 謝辞

本研究を行うにあたり, 南さつま市の米永茂氏にはイナズマヒカリイシモチに関する生息情報を提供していただいた。本研究は, 鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS アジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」, JSPS 若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム「熱帯域における生物資源の多様性保全のための国際教育プログラム」, 総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- Allen, G. R. and Erdmann, M. V. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xiii + 1292 pp.
- Gon, O. and Allen, G. R. 2012. Revision of the Indo-Pacific cardinalfish genus *Siphamia* (Perciformes: Apogonidae). *Zootaxa*, 3294: 1–84.
- Gon, O., Allen, G. R., Erdmann, M. V. and Gouws, G. 2014. A new species of the cardinalfish genus *Siphamia* (Perciformes, Apogonidae) from West Papua, Indonesia. *Zootaxa*, 3881: 358–340.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科. Pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・大西信弘・平松 亘・平田智法・山川 武. 1994. 日本初記録のヒカリイシモチ属の1種. *I. O. P. Diving News*, 5 (8): 2–6.
- 林 公義・矢野維幾. 1996. 日本(琉球諸島)初記録のテンジクダイ科魚類の1種. 横須賀市博物館研究報告(自然科学), (44): 47–53.
- 高木基裕・平田智法・平田しおり・中田 親 (編). 2010. えひめ愛南お魚図鑑. 創風社出版, 松山. 250 pp.
- 馬淵浩司・吉田朋弘. 2018. テンジクダイ科 Apogonidae. Pp. 248–253. 中坊徹次 (編), 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- Yoshida, T., Harazaki, S. and Motomura, H. 2010. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. Pp. 27–64 in H. Motomura and K. Matsuura (eds.), *Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo. viii + 264 pp., 704 figs.
- Yoshida, T., Hayashi, M. and Motomura, H. 2018b. *Ostorhinchus yamato*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from Japan. *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-018-0670-3
- Yoshida, T., Mabuchi, K. and Motomura, H. 2018a. *Rhabdamia novaluna*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from the western Pacific Ocean, with comments on the synonymy of *Rhabdamia gracilis*. *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-018-0664-1
- Yoshida, T. and Motomura, H., 2018. Redescription of the Indo-West Pacific cardinalfishes (Perciformes: Apogonidae) *Rhabdamia spilota* Allen & Kuitert 1994 and *R. gracilis* (Bleeker 1856). *Zootaxa*, 4377: 178–190.
- 吉田朋弘・山田彦彦・前川隆則・本村浩之. 2016. 標本に基づく鹿児島県初記録のイナズマヒカリイシモチ *Siphamia argentea* (スズキ目: テンジクダイ科). *Nature of Kagoshima*, 42: 169–172.